

新井邦二郎（あらい くにじろう：東京成徳大学学長、大学院心理学研究所）

専門：発達心理学、発達臨床心理学

他人の不幸は蜜の味

●矢ガモ事件

平成5年、吹き矢が頭に刺さったカモの一羽が東京の空を飛んでいるのが目撃されました。痛々しいカモの姿とそれを一目見ようと押しかける人々の群れが連日、当時のテレビに映し出されました。人々は矢に射られた姿のカモに何を感じて、一目でも見ようとしたのでしょうか。深い傷を負いながら頑張っている姿に感動を覚えたのかもしれませんが、それもあるでしょうが、かわいそうな姿を見て、自分はこれほどまで不幸ではないと感じ、そこにささやかな幸せを味わいたかったのかもしれません。

●他人の不幸は蜜の味

ドイツ語「schadenfreude」（英語読み：シャーデンフロイダ）は「他人の不幸は蜜の味」を意味します。他人の不幸のすべてが「蜜の味」というわけではありませんが、しばしば他人の不幸な姿が自分の幸福を強く意識させてくれる心理は、このような言葉の存在から西洋人も日本人も同じものと思われれます。また、この心理は別に性格の悪さを意味しているわけでもありません。誰もが有している心理のひとつと考えられます。「刑事コロンボ」は世界的な人気を博しましたが、その魅力のひとつが、医者や弁護士、心理セラピストなどといったアメリカで高い社会経済的地位を得た人たちの犯罪を解き明かして栄光の座を放棄させることにあると言えます。多くの人は意識していませんが、ここにも「他人の不幸は蜜の味」の心理がはたらいています。

●ねたみ（妬み・嫉み）の心理

「他人の不幸は蜜の味」とは反対の心理もあります。他人が幸せそうにしていると自分がなぜか不幸に思えてくる心理です。例えば、自分よりも先に高校や大学などの入学試験に合格した友人の幸福を素直に喜ばずに複雑な気持ちを感じたことはありませんか。また、自分がとてもみじめに思えてきて幸福な友人のそばにすることが耐えられないこともあります。これは、幸福な友人にねたみを抱いたためです。このねたみも、性格の悪さを意味していません。どの人も持っている心理のひとつです。ねたみは、私たちが自分の幸福を願うゆえに自然発生する副作用のようなものと言えます。

